

## 日本遺伝学会第 96 回高知大会を終えて

大会委員長 石井浩二郎

日本遺伝学会第 96 回高知大会は、令和 6 年 9 月 4 日～6 日の期間、高知市中心部にある高知工科大学永国寺キャンパスで開催されました。直前には迷走台風の直撃予想も出ましたが、幸い進路もタイミングも外れ、酷暑がわずかに和らいだ快晴の 3 日間となりました。おかげで国内外より総勢 318 名のご参加を賜り、たいへん活気に満ちあふれた大会を開催することができました。心より御礼申し上げます。大会参加者の内訳は、一般会員 150 名、学生会員 88 名、シニア会員 5 名、教育会員 1 名、招待演者 36 名で、非会員の方にも一般 14 名、学生 24 名のご参加をいただきました。全参加者の三分の一以上が学生となり、とてもフレッシュな大会になったと感じています。

このような若々しい活気は、大会において運営側が目指した目標のひとつでした。学生は大会参加費の面で優遇されますが、それに加えて、ポスター発表の時間は十分に長く確保できるように心がけましたし、最終日には前年の YBP 賞受賞者によるプレナリー口頭発表の機会も設けました。また、大会期間中の懇親イベント（ナイトゼミナール、懇親会）も充実したものになるように努力し、参加した学生にとって本大会全体が、日頃の研究データを発表して他の研究者との意見交換や交流が行える学会の悦びの原体験と、更なるステップアップへの意欲を刺激する機会になることを目指しました。果たしてこのような私たちの仕掛けが功を奏するのか、今後の遺伝学会での学生会員の動向を注目していきたいと思っています。

また、自画自賛となって恐縮ですが、本大会の澆刺とした雰囲気作りには、ご参加の皆さまに加えて、大会運営側の陣容も一役買ったかもしれないと考えています。悩んだ末、今大会ではプロフェッショナルな学会サポート業者の助けは借りず、全て自前で開催しました。会場は当学キャンパスですし、これによって一般会員も大会参加費を軽減でき、懇親イベントをより充実させることができたと考えます。一方で、自前であるがためにいろいろな面で垢抜けない素人っぽい運営になり、ご不便も多々あったかも、と反省しております。ただ、概ねはつつがなく順調に開催できたように思います。そしてその成功を支えたのは、各会場で運営に携わってくれた当学所属の学生です。暑さの折りもあり、彼らはスーツではなくスタッフ T シャツを着用して運営に臨みましたが、T シャツ姿の彼らが自分で考えて懸命に颯爽と動くさまは、素人ながらも好感と親近感を生み、プロフェッショナル運営とはひと味違った温かみを本大会に加えてくれたように考えます。大会運営サポートに積極的に関わって、良い雰囲気を生み出してくれた当学理工学群生命情報専攻の学生・院生諸君に、感謝の意を表したいと思います。

本大会の充実度は、3 日間行ったランチョンイベントの盛況さにも顕れていたと感じます。初日には男女共同参画推進 Q&A 参加型ランチョンフォーラム、二日目にはシニアラン

チョンワークショップ『マイ・リサーチ・ヒストリー』、三日目にはプレナリーランチョンワークショップ～第95回大会BP賞・YBP賞受賞者の講演より～、と毎日趣向の異なるイベントが開催されましたが、いずれも会場は超満員となり、準備した弁当100個は連日なくなっていました。当学永国寺キャンパスは教室内の飲食が基本的に禁止であり、運営側のその認識不足によって、ランチョンイベントはキャンパスのカフェテリアを利用した急造会場での開催になりましたが、教室よりも劣る映像・音響設備にもかかわらず、3日間ともそれぞれ素晴らしい内容のイベントを開催していただき、聴衆も大いに盛り上げていただきました。たいへん感謝申し上げます。会場変更を余儀なくされ、一時はたいへん焦りましたが、成功裏に終わったことに安堵し満足しています。

プログラム上は大会翌日ですが、高知県立牧野植物園で開催された日本遺伝学会公開市民講座『すごいぞ！四国の植物遺伝資源』についても、その成功にたいへん満足しています。当日は想定を越える参加者数となり、準備していた配布物が足りなくなる事態も発生しましたが、午前の部の講演会も、午後の部の体験講座も、四国の植物遺伝資源の不思議さと面白さがリアルに実感できる秀逸なイベントが繰り広げられました。この開催にあたり、直前まで親身に相談に乗ってくださり、様々なご協力をいただいた、牧野植物園植物研究課長の藤川和美先生に心より感謝を申し上げます。また、本当に本番直前の演者交代のお願いにもかかわらずご快諾いただき、素晴らしいご講演を急遽準備して行ってくくださった、岡山大学資源植物科学研究所の長岐清孝先生にも心からの感謝の意を表します。

また、長岐先生には大会ホームページの作成でもたいへんお世話になりました。長岐先生はホームページに関する全てを一手に引き受けてくださり、本当に助かりました。誠にありがとうございました。さらに、大会の国際シンポジウムを共催くださった文科省科研費学術変革領域(A)「バイオロジカルクラスター：細胞内における超分子複合体の形成機構と機能特性」には、シンポジウム開催に関して大会収支とは独立に多大なるサポートをいただき、心から感謝を申し上げます。そして、末筆にはなりますが、大会実行委員、プログラム委員、シンポジウム・ワークショップ等の各種企画の担当者、発表者、そして大会の参加者を含め、本大会の開催を盛り上げてくださった全ての皆さまに、心より感謝いたします。